

びろっば

Vol. 468 2025. 7



仕事も、私事も。
私らしく。

ALL CHIKAMORI
近森就職セミナーGW

医療職のリアルに触れる!

高校生進路発見セミナー

〈入江理事長プロジェクト〉

未来の医療を支える

「地域フォーミュラリ」の構築を目指して



入江理事長の

Project

近森会の今後の新しいプロジェクトについて、順次ひろっぱでお知らせします。

プロジェクト

社会医療法人近森会 理事長
入江 博之 いりえ ひろゆき

プロジェクト7

未来の医療を支える「地域フォーミュラリ」の構築を目指して ## 南海トラフ地震に備えた医療提供体制の強化

高知県では近い将来、南海トラフ地震の発生が危惧されています。この未曾有の災害に備え、私たち近森会では、医療提供体制の強靱化に向けた新たな取り組みを開始いたします。

去る3月13日に開催した講演会「フォーミュラリって何?」では、札幌市手稲地区の先進的な取り組みを学ぶ機会を得ました。手稲溪仁会の成田吉明理事長と札幌薬剤師会手稲支部長の澤田博文先生をお招きし、地域フォーミュラリの実践例をご紹介いただきました。



成田先生



澤田先生

フォーミュラリとは、疾患別の推奨薬リストです。各疾患に対する標準的な薬剤を選定することで、大規模災害時における処方薬不足や変更による混乱を防ぎ、また日常的にも効率的な在庫管理・配送を可能にします。手稲地区では2023年に高脂血症薬スタチンや胃薬PPI、歯科抗菌薬、鎮痛剤などから始め、徐々に降圧薬やインフルエンザ薬へと拡大。その結果、薬剤費の大幅な削減効果も確認されたとのこと。

厚生労働省も2023年から地域フォーミュラリを推進し、第4次医療費適正化計画にも盛り込まれています。しかし私たちが最も注目したのは、災害時の医療体制強化への貢献です。推奨薬を集中的に備蓄することで、いざという時の薬剤供給が確保できるようになります。

南海トラフ地震が予測される高知県において、この取り組みは単なる医療費削減策ではなく、災害医療の要となるものです。今回座長を務めてくださった、野並誠二高知県医師会長、西森康夫高知県薬剤師会長をはじめ歯科医師会や看護協会にイニ

理事長
Project
ご報告

みなさんの“がんばり”に感謝!!

支給されたみなさんの
喜びの笑顔が届きました!

ひろっぱ 2024年12月号で紹介した、「入江理事長のプロジェクト2」の「近森会『がんばったぞ賞』（業績連動型賞与）」が、6月10日、上期賞与に乗せて支給されました。

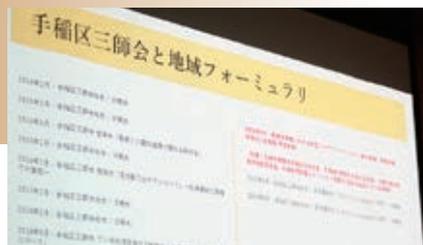


「がんばったぞ賞」についてはQRから(2024年12月号) →



『フォーミュラリって何?』

2025年3月13日



▲ 当日は院内外より63名の方々にご参加いただき、質疑応答も活発に行われました。

◀ 【前列左より】野並先生、近森会 近森相談役、成田先生、澤田先生、西森先生
【後列左より】近森病院 川井院長、筆者(主催)、近森病院 薬剤部 筒井部長

講演1 地域フォーミュラリの概要とていね地区導入の経緯

- 講師 / 札幌薬剤師会手稲支部長 澤田 博文先生 (有限会社かえで薬局 取締役)
- 座長 / 高知県薬剤師会 会長 西森 康夫先生 (にしもり薬局)

講演2 フォーミュラリ、病院から地域への展開

- 講師 / 札幌市医師会手稲区支部長 成田 吉明先生 (医療法人深仁会 理事長)
- 座長 / 高知県医師会 会長 野並 誠二先生 (医療法人野並会高知病院 院長)



シアチブを取っていただき、「高知県地域フォーミュラリプロジェクト」が開始されることを期待しています。

このプロジェクトでは、まず基本的な薬剤から始め、段階的に対象を広げていく予定です。医療関係者だけでなく、患者さんや一般市民の皆様にもご理解いただけるよう、情報発信にも力を入れてまいります。

今回は1年以内には完了しないであろうプロジェクトをご紹介します。

このフォーミュラリの導入は、地域全体の災害医療体制強化につながると思います。皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



近森会グループ 看護師採用試験

2026年度

第3回 2025 8/16 SAT 土 .17 SUN 日 第4回 2026 1月 予定

www.chikamori.com/group/recruit/nurse/ 近森 看護師 検索

● お問い合わせ先 / TEL:088-822-5231 (代表) メール:kango@chikamori.com



職員募集中!



3,000とおりの誇れる仕事

詳しくは、近森会グループHPの採用ページをご覧ください。



募集職種

- 医師
- 薬剤師
- 看護師
- 診療放射線技師
- 介護福祉士
- 臨床検査技師
- 救急救命士
- 臨床工学技士
- 理学療法士
- 管理栄養士
- 作業療法士
- 事務
- 言語聴覚士

出張

第19回 ザンクトガレン国際乳癌会議
(2025年3月12~15日/オーストリア・ウィーン)

世界の乳癌治療の潮流を探る



近森病院 乳腺センター センター長
兼 乳腺外科 部長
杉本 健樹 すぎもと たけき

ザンクトガレン国際乳癌会議に出席してきました。1978年スイスの古都St. Gallenで始まり、2000年代に早期乳癌治療の世界的な合意形成会議に発展し、2015年からウィーンに移って2年毎に開催されています。100か国以上から5,000人の専門家が集まり(写真1)、最終日にパネリスト

(今回は72人)が様々な課題に対し投票を行うのが恒例です(写真2)。

今年のトピックスは、手術では、エストロゲン受容体(ER)陽性HER2陰性でリンパ節腫大がなければ80%が腋窩センチネルリンパ節生検の省略に賛成。薬物療法では、トリプルネガティブ乳癌(TNBC)では腫瘍径5mm以上で76%が化学療法を推奨し、ER低発現(1~9%)は82%がTNBCと同様の治療を推奨。HER2陽性乳癌では心毒性のため75%がアンソラサイクリンを避けることを推奨。ER陽性HER2陰性乳癌では抗がん剤の過剰治療を避けるため21遺伝子発現解析(オンコタイプDX[®])を1cm以上の腫瘍で100%が必要と判断。また、国内では行われていない温存術後の超寡分割照射(5回)(写真3)や私達も行っている化学療法誘導末梢神経予防の二重ゴム手袋(圧迫法)なども市民権を得つつあると感じました。

投票結果の多くは自分達の現在の治療に確信を持たせてくれるものでしたが、アンソラサイクリン回避や超寡分割照射など取り組むべき課題も明らかになりました。



1



2



3

近森名物・職員旅行
今年は37コースが決定!

メリハリの利いた働き方が当院の特徴です。職員同士の交流によりチーム力はさらに向上するでしょう。よく働き、よく遊ぶ!さあ、どのコースに参加しようかな!

近森病院 院長
川井 和哉 かわい かずや

楽しむ時は
思いっきり
楽しみましょう!

学会発表

APOA2025

〈2025年4月9～12日／オーストラリア・ケアンズ〉

コアラも参加した
学会近森病院 整形外科
鳥山 貴裕 とりやま たかひろ

演題

Cotton-shaped artificial bone grafting combined with TFNA cement augmentation system
in the revision surgery of proximal femur
(大腿骨骨頭頸部の骨欠損例に綿形状人工骨とTFNA cement augmentation併用の有用性)

APOA2025に参加させていただきました。異動して間もないタイミングでの海外出張となりましたが、快く送り出してくださいました整形外科の先生方に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

現地ではeポスターの発表を行いました。今回が初めての海外学会参加となりましたが、質疑応答の場ではオーディエンス同士が議論を始めてしまい、予定通りにセッションが進まない場面があったり、発表中にもかかわらずオーディエンスが自らの意見を述べ始めるなど、カオスな状況になることもあり、日本の学会とは大きく異なる雰囲気に驚かされました。

ケアンズというリゾート地での学会でしたが、残念ながら観光の時間は取れず、地元のシーフード料理を楽しむ程度にとどまりました。しかし、レセプションパーティーでは学会会場にコアラやヘビ、トカゲなどが登場し、記念撮影を楽しむなど、オーストラリアならではの体験をすることができました。

海外学会に参加して、日本ではみられないような治療、インプラントを使用した報告もあり新鮮さを感じましたが、同時に日本の医療の質の高さも実感しました。今回の経験を日常臨床に活かして、今後の医



左端、昨年度までの勤務先である福山市民病院の整形外科 統括科長 寺田忠司先生、左から4人目、川崎医科大学総合医療センター 整形外科 部長 野田知之先生

療の質の向上に努めたいのと同時に、引き続き積極的に学会発表、論文作成に取り組み、自らの研鑽を続けていきたいと思っています。

ハッスル研修医

ヨロブン アンニョンハセヨ ※1

初期研修医 1年目 李 聖一 いそんいる

両親が韓国人ですが、私は大阪で生まれ育ち、韓国語は全くわかりません。ぜひ日本語で声をかけていただけたらと思いますニダ(※2)。

そんな私が小さい頃から夢見ていた「医師」という職業にようやく就くことができました。浪人生活もあり、ようやくという気持ちです。親の方が「ようやく」と思っているでしょう。本当にカムサハムニダ(※3)です。

初めて住む高知県で初めての仕事ということもあり、研修医生活は想像以上に大変だと実感しております。しかし、先生方をはじめ、スタッフの方々が丁寧に指導して下さることに心から感謝しています。まだまだ未熟ではありますが、学ぶ姿勢を忘れず、今できることを大切にし、少しずつでも前に進んでいけるよう努力を重ねていきます。

※1…皆さん、こんにちは ※2…ます ※3…ありがとうございます



論文掲載

日々の疑問を形にする重要性と
英語論文の発信力

近森病院 臨床栄養部 管理栄養士 主任

田部 大樹 たべ だいき



論文名

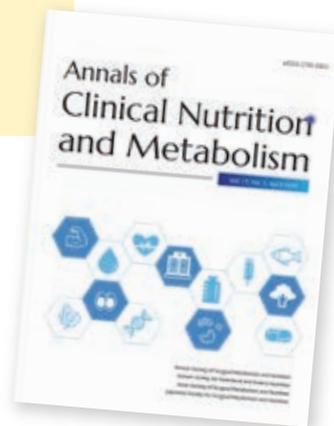
Association between decreased dietary intake during hospitalization and long-term weight loss in postoperative gastric cancer patients over 75 years of age: a retrospective cohort study

(75歳以上の胃切除術後患者における術後入院中の摂取エネルギー量低下と長期的な体重減少の関連)

掲載誌

Annals of Clinical Nutrition and Metabolism
2025; 17(1): 75-84.

閲覧は
こちらから →



本論文は、以前日本語で論文にした「高齢な胃癌患者さんでは入院中の食事摂取量低下が長期的な体重減少と関連した」という原稿を英語で二次出版したものになります。癌の治療が進み高齢な患者さんでも治療の選択肢が広がっていますが、体力が低下してしまうと治療が継続できないことがあります。そこで体力が低下しやすい人を入院中からピックアップできないか?という疑問を元に本研究に取り組みました。

早く患者さんに栄養学的に介入する根拠を見つけられたと思います。また英語にすることで、日本だけではなく全世界へ発信することができます。より良い栄養管理を多くの人へ発信していくために、引き続き臨床研究を行い日本語・英語での論文執筆に取り組んでいきたいと思います。

2025年度 看護師特定行為研修 開講式

2025年5月31日

今年度は過去最多29名もの看護師が受講します。チーム医療のキーパーソンとして活躍できるような看護師を目指し、頑張ってください。

2025年度 近森病院
看護師特定行為研修 開講式



クラウドファンディング
ご支援よろしくお願いします

手測最大
浸水深2m
来たるべき大災害に備え、
病棟間をつなぐ
空中通路を建設します。

備えが、
高知の
命を救う

目標金額 1,000万円
2025
実施期間 6.2月▶7.31月

EINEE高知
えいご
四国銀行 高知新聞社
READY FOR

詳細はこちら

高知の命と医療を守る「空の架け橋」プロジェクト

≡ 米国臨床留学で得たもの ≡

ボルチモアに来てから早いもので11か月が経ちました。長く寒い冬を越えた後、4~5月は温暖で、街中が緑であふれたベストシーズンを楽しむことができました。週末の朝は同僚のフェローとハーバー沿いや大きな公園をジョギングするのが習慣となっています。この街での生活によりやく馴染んできたと感じていたため、あと数週間で離れるのは少し寂しさも感じます。この1年間、Johns Hopkins大学での臨床留学で得たものや、反省点をまとめてみたいと思います。

ボルチモア中心地区に位置するパターソン・パーク。日本の皇居と同じくらいの大きさ。



得難い臨床経験 ~全米から難治例の患者さんも~

1年間通して継続してきた専門外来では、筋炎を中心としたリウマチ難病の症例を200例以上経験することができました。そのうちの数十例は診断困難、あるいは難治例で全米から紹介されてきた患者さんで、難しい症例を診療することを通じて高度な専門性を磨き上げることができました。一方、最終的に診断がつかない場合もあり、リウマチ学がまだ発展途上であることも再認識しました。

研究での成果と今後の展望

研究においては、複数のプロジェクトを同時に進めましたが、現時点では5編の論文を北米および欧州の学術誌に執筆することができました。中でも、「Hopkins基準」と命名した筋炎の新しい画像の評価基準を作成し、有効性を検証した研究は、最も重要な成果の一つになると思います。帰国後も画像診断のデータベースを用いて解析を進めていく予定であり、引き続きこの分野におけるリウマチ学の発展に貢献していきたいです。

人との繋がりがもたらす可能性

留学先で同じ時間を過ごした同僚のフェローや、指導医との繋がりが最も貴重な財産となりました。帰国後も交流を続けることで私や私の後輩の医師の成長や新しいキャリアのチャンスを生み出す機会になることを期待しています。若い先生たちにとって米国臨床留学は遠い夢のように聞こえるかもしれませんが、人との繋がりによっ

て、急にチャンスが巡ってきたりするものです。リウマチ科に限らず留学を考えている方は、ぜひ相談してもらえたら嬉しく思います。



教授のご自宅での送別会の様子。

失敗と学び ~英語力と臨床研究へのアドバイス~

留学生活はもちろん良いことばかりではなく、数々の失敗や大変な思いも経験してきました。中でも英語力は最も大事だと思います。自分以外全員がネイティブスピーカーという状況で、円滑にコミュニケーションをとっていくことは時に難しい場合もあります。留学を志す方は、十分すぎるほどの英語の準備をして臨んでいただきたいです。

もう一つ、米国で臨床と研究に携わる場合の注意点をお伝えしたいと思います。大学病院に限ったことではないですが、病院の使命はあくまで患者さんの命と健康を守ることが第一であり、研究は二の次です。研究の立案から実施のプロセスを進めていくには、膨大な時間と忍耐が必要な時もありますし、臨床研究は患者さんが主役である、という点を肝に銘じて臨むことが大事だと思います。

感謝の気持ちを込めて

今回の臨床留学は私一人の力では実現することはできませんでした。留学をサポートくださった入江理事長、川井院長、不在中のリウマチ・膠原病内科を支えてくださった公文部長、中山部長をはじめとする内科の先生方、内科秘書の皆さん、寺田管理部長、谷総務部長、そしてひろっぱの記事の編集を担っていただいた広報課をはじめとする管理部の皆さんに深謝申し上げます。また、留学の実現に向けて多大なご支援を賜りました高知医療再生機構の倉本秋先生にも、この場をお借りして心より御礼申し上げます。最後になりますが、不在中にサポートを続けてくれた妻と義母にこの場を借りてありがとうと伝えたいと思います。

▶
ボルチモアの観光と経済の中心地であるインナーハーバーエリア。週末はたくさんのランナーがここに集まる。

病院 薬剤師 体験会

県内高校生向け



2025年3月11・18・27・28日

薬剤部 部長
筒井 由佳 つつい ゆか

昨年に続き当院で開催した病院薬剤師体験会に、今年も土佐塾高校から19名の生徒が参加してくれました。

高知県では病院薬剤師、特に若手人材の不足が課題となっています。県内には薬学部がなく、薬剤師を目指すには県外の大学で6年間学ぶ必要があります。

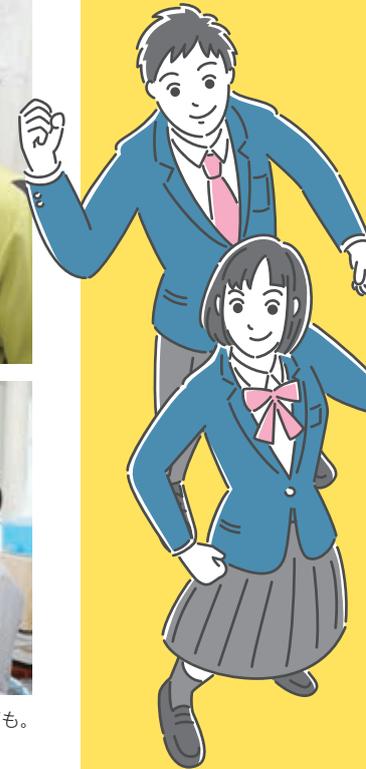
体験会では、病院薬剤師が病棟や外来において多職種と連携し、薬を安全に使用するために重要な役割を果たしていることを実際に体験してもらいました。参加者からは、「薬の調剤だけでなく、抗がん剤や患者さんのサポートなど、たくさんの仕事をしている」「医師、看護師などとチームで協力している仕事」という感想が寄せられました。

この体験を通じて薬剤師という職業に関心を持ち、進路の選択肢に薬学部を加えていただければ嬉しく思います。そして、県外で学んだ後は、ぜひ高知県に戻り、地域医療を支える薬剤師として活躍していただけることを願っています。



3/11には取材陣も来て、参加者がインタビューに答える一場面も。

近森会



リハ部 病院見学ツアー

高知健康科学大学との連携・中高生対象

2025年5月10日



高校生が医療の現場を体験

リハビリテーション部 統括部長 高芝 潤 たかしぼ じゅん

近森会リハビリテーション部は、2025年5月10日、高知健康科学大学との連携で、中高生対象病院見学ツアーを開催しました。

医療分野に関心を持つ高校生と保護者、計21名が参加し、近森病院、オルソリハビリテーション病院、近森リハビリテーション病院の3施設を見学。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の仕事や、チーム医療の現場を体験していただきました。



地元学生

近森会では、未来の地域医療を支える地元の学生との交流を大切にしています。医療の現場を実際に見たり、スタッフと話したりすることで、学生の皆さんが少しでも地域医療に興味を持つきっかけになれば嬉しいです。



認知症マフ ご寄付

高知国際高校のみなさん
ありがとうございます

～身体的拘束最小化のための認知症マフ～

近森病院 看護部長室 主任 認知症看護認定看護師
小松 有希 こまつ ゆき (上写真・右端が筆者)

認知症マフとは、筒状の毛糸など肌触りの良い物の中に手を通し、マフの中にあるアクセサリーを触ることで触覚を刺激したり、安心を与えるのに役立つ物としてここ数年、様々な病院や施設で導入されています。

当院でも導入していましたが、このたび高知国際高校の有志14名の協力でマフを増やすことができました。

作成してくれた高校生にマフ作りに参加してくれた理由を聞くと、「医療業界に興味がある」「おばあちゃんのために作れるになりたい」など心が温くなる言葉が聞かれました。優しく、温かい気持ちを込めて作られたマフが、入院生活で不安やさみしさを抱える高齢者や認知症の方の手を包み、安心して治療を受けられるよう大切に使用させていただきます。



ありがとう
ございました!



参加者からは「患者さんとの関わりが印象的だった」「医療の仕事への関心が深まった」などの声が寄せられ、進路を考える上での良い機会となりました。

この取り組みは、高知健康科学大学の公式サイトでも紹介されています。

近森会では今後も、地域の教育機関と連携し、次世代の医療人材育成に努めてまいります。

高知健康科学大学
公式サイト内の
記事はこちらから →





第6回 ALL CHIKAMORI 近森就職セミナー

GW
ゴールデンウィーク



経営企画部 部長
山崎 啓嗣 やまさき ひろつぐ

近森の魅力を伝える。

職種の垣根を越えて魅力に出会う近森就職セミナーGW

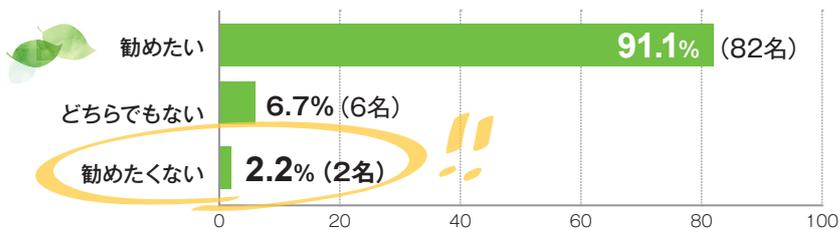
5/3 (祝) に「近森就職セミナーGW」を開催しました。今回は午後だけの開催でしたが、100名を超える方々にご参加いただき、大変活気あるセミナーとなりました。

本セミナーの特長は、自分の希望職種だけでなく、他の職種のブースにも自由に足を運び、そこにいる職員から自身の職種についての話を聞ける点です。たとえば、看護師を目指す学生が検査技師やリハビリ職のブースを訪れ、実際に

当院で働く看護師についての話を聞くことができるなど、職種の垣根を越えた交流ができるのが魅力です。

回を重ねるたびに嬉しい声をいただいておりますが、今回は思わず心が動かされるような、印象的な回答がありました。

このセミナーを友人や知人に勧めたいと思いますか？ ※近森セミナーのアンケート結果(90件)



なんと、初めて「勧めたくない」という否定的な回答をいただきました。しかし、その理由を見ると、

このセミナーを勧めたくない理由(記述式回答)

- こんなにいい病院を、誰にも紹介したくないから。
- 私だけが知っていたい。こんなに素敵だと知られたくない。

というものでした。

「えっ、そこまで？本当に？」とちょっと驚いたのですが、セミナー当日のことを思い返すと他にも沢山の嬉しい反応があって、「ちゃんと伝わっていたんだなあ」と。病院や各職種の魅力が届いたのだと思うと本当に嬉しかったです。

これからも「近森を選んで良かった」と思ってもらえるよう、安心して就職できる場づくりに努めていきたいと思っております。





医療職のリアルに触れる!

高校生進路発見セミナー

セミナー満足度

99%

医療職の魅力を伝える。

高校生進路発見セミナーで医療職への進路選択をサポート

近森就職セミナーGWと同日の午前は、高校3年生を対象とした「医療職のリアルに触れる! 高校生進路発見セミナー」を初開催いたしました。

本セミナーでは、医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士など、さまざまな医療職の仕事内容や、やりがいを実際に現場で働くスタッフが直接紹介。参加した高校生たちは、実際の医療機器に触れたり、現場のリアルな話に耳を傾けたりと、普段なかなか経験できないような時間を過ごしてもらえたと思います。

参加者アンケートでは「医療の仕事がより身近に感じられた」「自分の悩んでいる医療職を医療従事者の方に相談に乗っていただきもっと深く考えることができました」などの声が寄せられ大変好評でした。

主催者として大きな手応えを感じていますし、高知の地域医療を担う若い世代のサポートとして、このような機会を継続的に提供していきたいと考えています。

参考になった
9.1%



※高校生進路発見セミナーのアンケート結果(11件)

とても参考になった
90.9%

看護師になりたい意志がさらに高まってモチベーションになりました!

自分の将来の夢がさらに明確になりました。

もっと色々な医療職に触れたいと思いました。





近森会グループ看護部
マスコットキャラクター
モリンちゃん

病院と地域の人々を支える存在になれるように

訪問看護ステーション ちかもり / 在宅看護専門看護師
扇谷 静香 おおぎだに しずか



2017年に念願だった訪問看護ステーションちかもりに新卒で所属し、院内外の研修を受けながら、訪問看護師としてのキャリアを重ねてきました。

訪問看護師として働く中で、利用者さんご家族が望む生活を支援するための視野を広げたいと思い、在宅看護専門看護師の道を志しました。2024年に大学院を修了し、昨年12月に資格を取得することができました。

訪問看護は、近森病院の患者さんだけでなく、地域の病院や診療所のかかりつけの方にも訪問しています。日々の訪問では身体的・精神的ケアだけでなく、病院内外での多職種と連携し、利用者さんご家族の生活に必要なサービスを提供しています。

在宅看護専門看護師として、病院、ステーションスタッフ、地域の人々からも頼られる存在となり、縁の下の力持ちとなれるよう精進していきますので、よろしくお願いいたします。

◀ 左が筆者、山下所長と一緒に。

栄養で支えるがん治療

近森病院 臨床栄養部

近森病院 臨床栄養部
管理栄養士 主任
田部 大樹
たべ だいき



味覚異常が起きた時は

この連載では、1年前に亜鉛と味覚異常について取り上げました。味覚異常は相談の多い内容です。亜鉛不足だと味覚異常が起こることがあるため、亜鉛の多い牡蠣やうなぎ、ココアなどを積極的に摂取することをお勧めしましたが、今回は味が分かりにくい時の工夫についてお話します。

抗がん剤治療中は塩味の感じ方が低下しやすく、一方で旨味が感じやすいことが報告されています。そのため、塩味や旨味の強い料理が食べやすい患者さんが多く、例えば冷凍食品のお好み焼きやインスタント焼きそば・ラーメンなどは食べやすかったと聞くことが多い印象です。これらの加工食品は手軽にエネルギーが確保できる、食欲が低下した時にもってこいの食品です。冷凍食品にはある程度たんぱく質が含まれていますし、インスタント麺に煮卵や練り物を入れるとバランスが良くなります。

また、抗がん剤治療中は甘みも感じやすいといわれており、食後にプリンやアイスなどの卵・乳製品を使ったデザートを取り入れると栄養のバランスが良くなります。

症状は一概に同じとは言えませんが、味が分かりにくいという方は今回お伝えした食事の工夫を行ってみていただければと思います。



「がん治療と亜鉛」についてはQRから(2024年6月号) →



抗がん剤治療における味覚の特徴を知り、美味しく簡単に栄養を摂れる工夫を!

味覚異常で食欲がないときにお勧め

塩味や旨味の強い料理

お好み焼きやインスタント焼きそば・ラーメン (+煮卵や練り物)



デザート

プリンやアイスなどの卵・乳製品



腰痛ゼロの職場づくりへ

～近森会2施設が

Champion Stage

達成!～



右が筆者、近森病院理学療法科 田中 科長と。



リハビリテーション部 統括部長
高芝 潤 たかしぼ じゅん

近森会では、2023年度より日本理学療法士協会主催「職場における腰痛予防宣言!」(厚生労働省後援)に参加し、職員の健康維持と働きやすい職場づくりに取り組んできました。この活動は、職場での腰痛の発生を予防し、労働災害を減らすことを目的とした全国的な取り組みです。

2024年度は、近森病院および近森リハビリテーション病院の2施設が共に「Champion Stage」を達成しました。これは日々の現場での地道な取り組みの成果であり、スタッフ一人ひとりの意識と努力の賜物です。

今後も継続してこの活動に取り組む、スタッフの健康を支えると共に、地域や外部事業所への腰痛予防支援にも積極的に対応できる体制を整えてまいります。



看護学校通信

2学年合同での校外研修

2025年4月16日

近森病院附属看護学校 専任教員
和田 理恵 わだりえ

4月16日、2・3年生合同で徳島県にある大塚国際美術館へ校外研修に行ってきました。

例年この時期には各学年で遠足に行っていましたが、今回は課外活動の一環でバスに乗って美術館を目指しました。いざ美術館へ足を踏み入ると、そこは西洋名画が特殊技術で再現・展示され、どこを見渡しても世界の美術にふれることができます。学生からも「この絵見たことある」なんて声もちらほら…。私は数年前に一度足を運んだことがありますが、アートを楽しむ場所も増えており、学生と一緒に教員も視覚的にたくさん刺激をもらった研修となりました。



2025
7/27
SUN 日

OPEN CAMPUS

詳細は で検索、または右のQRコードより公式ホームページをご確認ください。社会人や保護者の方の参加も大歓迎です。



CHIKAMORI COLLECTION

近森コレクション

不定期掲載



マッカラン18

内田 貴裕氏 (アートセンター画楽)



アートセンター画楽

14ページ「ぶらり旅」の問いの答え：皇宮警察です。唯一、国が設置する警察で、警察官は皇宮護衛官と呼ばれ非常に怖い存在ですので、見学中コースから外れたりしないようにしてください。


 リレーエッセイ

 「ひろっぱ講座」
 頑張っています！

 経営企画部 広報課
 武村 由美 たけむら ゆみ


近森病院の出前講座「ひろっぱ講座」が開講されて、7年目となります。グループ内の各専門職が講師として高知県内どこへでもお伺いし、地域住民の皆様の健康増進を図る講座を開催するもので、これまで累計205回の開催実績があります。

私は2023年に入職し、「ひろっぱ講座」のアシスタントを担当させていただいております。やや方向音痴のため、遠方や郡部へ伺う際には冷静を装いつつ内心ハラハラしながら運転していることもあります。お招きいただいた各地の皆様からたくさん質問をいただいたり、「講義が聞いて良かった!」というお声をいただく度に、近森病院と地域を繋ぐお手伝いのできたようで、大変嬉しく思います。

オンラインでさまざまな情報収集ができる現在ですが、対面でのコミュニケーションならではの信頼感や安心感を「ひろっぱ講座」を通して多くの県民の皆様にご実感していただけるよう、今後も力を尽くしたいです。



 私の趣味

 ゾクッとする
 僕の変った趣味

 近森病院 画像診断部 岡本 直人
 診療放射線技師 おかもと なおと


僕は高校生の頃から心霊番組をテレビで見るのが好きでした。番組内でおかしな声が聞こえたり、変な心霊写真が撮れたりすると、実際に幽霊がこの世にいるのではないかと思うようになっていきました。それで幽霊がよく出る場所に行って、高校生の頃見ていた心霊番組のように幽霊を探すようになりました。僕が実際に体験した恐怖体験をお話します。

その日、僕は幽霊が出ると有名なトンネルに来ていました。そのトンネルではタクシー怪談の噂があります。トンネルを通ろうとしたタクシーの運転手がトンネル前で親子をタクシーに乗せます。トンネルを抜ける直前、ルームミラーを確認すると乗せたはずの親子が消えていたという噂があります。そのトンネルに肝試しに行き、トンネルの中を歩きました。トンネルの中間くらいに差し掛かったときに女性の笑い声のようなものが後ろから聞こえ、足を止め振り返りました。しかしそこに女性の姿はありませんでした。



僕はこれまで恐怖体験をしたことがあっても、幽霊の姿を見ることはできていません。これからも幽霊の姿を捉えるまで、探し続けます。

 FREE 私の〇〇 まるまる 〇〇にフリーワードを入れて語っていただきました

私の「ピザ窯第2弾」

 近森病院 北館4階 看護師
 徳橋 麻紀 とくはし まき


数年前、「旦那さんが庭にピザ窯を作った」という記事をひろっぱへ投稿しましたが、コロナ禍になりピザパーティー(笑)開催が難しくなりました。寂しいなあと思いつつ、またいつの日かみんなで楽しくワイワイとピザパーティーをする事を楽しみにしていました。

コロナも5類になりましたが、それでも流行があったりでなかなか開催できない日が続くなか、昨年やっとピザパーティーができました!メンバーは私の方と、旦那さんサイドのいつメン♪ 私はひた



すらピザを作り続けるので、みんなとゆっくりお話ができませんが、楽しくピザを食べている様子を見る事ができて、凄く楽しい時間が持てました♪

ずっとピザ窯の火の番をしてくれる旦那さんに感謝しつつ、CEさんや心臓血管外科Drもすごく楽しそうで開催できて良かったなあと思いました。また次の開催が楽しみです!



京都 桂離宮・修学院離宮

7月はじめ、京都の桂離宮、修学院離宮、仙洞御所、大宮御所をぶらりと巡ってきました。手入れの行き届いた美しい日本庭園と簡素な中に深い精神性と美を表現した建築の総合美は世界に誇るものですので、オンライン予約してぜひ一度訪ねてみてください。

ちなみに、これらの離宮、御所を警備しているのは京都府警でしょうか？(答えは12ページの下)



▲ 桂離宮全景 中央には複雑に入り組む池があり、回遊式庭園と数寄屋風の建物で構成されている。



◀ 石畳



▲ 修学院離宮全景

上(かみ)・中(なか)・下(しも)の3つの離宮からなり、それらを結ぶ松並木と両側に広がる田畑で構成されている。



◀ 新御殿は寛文(かんぶん)2年(1662年)頃、研ぎすまされた美的感覚をもった智忠(としただ)親王により築かれた。

黒く扁平な石が敷き詰められた洲浜(すはま)の先には、天の橋立に見立てた中島と石橋、奥には茅葺入母屋(いりもや)造りの茶室、松琴亭(しょうきんてい)がたたずんでいる。



◀ 上離宮の浴龍池、鳥の形を泳ぐ龍の姿に見立てている。

※写真は筆者による撮影。宮内庁京都事務所に許可を得て掲載。

今年も振り見せを行いました!

2025年6月6日

150名を超える方々がおいでくださいました。今年のテーマは「燦燦」、本祭をお楽しみに!



◀ 「よさこいちかもり」のホームページはこちら

※「よさこいちかもり」の題字は中嶋医師が揮毫しました。

編集室通信

NHKの連続テレビ小説「あんぱん」に登場する「あんぱん」は、誰かを思いやる気持ち、さりげない優しさ、そして「自分へのごほうび」の象徴でもあります。私達の周りにも、「あんぱん」のような存在が沢山。みんなが誰かにとっての「心のあんぱん」なのだと思います。 由似

診療数 2025年5月

— 電子カルテ管理課 —

● 近森会グループ

外来患者数 16,599人
 新入院患者数 1,070人
 退院患者数 1,055人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数 12.13日
 地域医療支援病院 紹介率 100.36%
 地域医療支援病院 逆紹介率 297.70%
 救急車搬入件数 587件
 うち入院件数 314件
 手術件数 578件
 うち手術室実施 361件
 うち全身麻酔件数 260件

吉田 彩人

Ayato Yoshida

近森病院 理学療法科 理学療法士

聞き手／ひろっぱ編集部



傷ついた経験を
優しさに変えて

昨年度、近森会グループMVPの患者アンケート上位部門を受賞した近森病院の吉田理学療法士(PT)。受賞理由は「優しい寄り添いのおかげでリハビリを頑張れた」という多数の患者さんの声(※)。たしかに、取材場所に現れた吉田さんは、柔らかい優しさをまとっていた。

受賞への想い

早速、MVPに選ばれた感想と、PTとして大事にしていることを聞いてみた。「素直に嬉しかったです。感謝してくれる人がたくさんいることに『ありがとう』って。リハビリってしんどいんです。病気やケガで辛い時に、さらにしんどいことは嫌はず。患者さんの緊張をほぐして気持ちが楽になるよう、会話を多めに取ることを意識しています」。

愛媛県出身で、スポーツの強豪校である新田高校の軟式野球部出身。ポジションはピッチャーだった。しかし、肘を痛めて入院し、その時に理学療法士の存在を知った。一度は復帰するも、今度は肩を壊してレギュラーを諦めた。「真冬も頑張って投げていたし、とても落ち込みました…。でも、そこから、人に寄り添うことが大切と気がついて自分が変わりました」と振り返る。

「俺が一番!」だった中二病時代

「僕、小・中学の頃は、親が心配するくらい目つきが悪かったんです」と、今の柔らかな印象とは真逆だったようだ。「自信過剰で、例えばですね…体育祭の時、『アンカーは

※近森病院では、患者さんが退院の際アンケートを配布。その中で「特によかったスタッフ」の項目があり、上位者をその年のMVPに選定しています。

俺しかないやろ?』と思ったり、友人にも『自分と同じチームになれて良かったね』と話しかけたり、本気で思っていたからタチが悪い」と、「中二病」のエピソードが次々と…。しかし、スポーツ万能な友人がたくさんいる高校に入学した頃から、上には上がいることを実感し、自分のケガの経験もあり、優しく声がけができる仲間の優しさに気づき、そんな人間になりたいと思い始めたようだ。

LINEでつながる家族

家族は4人。父は鳥取、母は愛媛、兄は広島、吉田さんが高知とバラバラに暮らす。父は単身赴任が長く、ほとんど一緒に暮らしたことがなかった。そのため、専門学校を選択する際、当時高知に単身赴任中の父と一緒に暮らしたいと思ったのが高知にやって来た理由だ。「毎晩、夕飯を父と一緒に食べて、いろいろと話せて楽しかったです」と振り返る。「僕は、人前で話したり後輩に指導したりするのは苦手なんですけど、兄ならできるだろうなあとよく考えています。あ!でも兄みたいになりたいとかではなく、僕は今の感じがいい」と笑った。「家族とは離れているけど仲は良いと思います。僕が中二病だった時は喧嘩ばかりだったので、今はおだやかです」とまたまた中二病が登場したから、よっぽど…。

患者さんに寄り添いたい

入職4年目を迎えるが、技術、知識はまだまだと自覚。「業務中に分からないことがあれば、メモ帳に殴り書きをして、帰宅して読み返す日々です」という吉田さんが、仕事上で大切にしているのが、「人によって態度を変えないこと」。そして「患者さんに寄り添うこと」が信念



今はまっているのは、同じ部署の先輩たちと通うボーリング。仕事終わりに集合して4~5時間、ワイワイ言い合いながら、へろへろになっても遊び続けているそう。



趣味のバイクは、こちらが2代目。1人で走るより、友人とツーリングに行くのが好きだそう。



最近新しく家族になった、マルプー(マルチーズとプードルのミックス)のリーベ君。名前の由来を聞くと、ドイツ語で「愛」の意味。ネーミングセンスも優しさに溢れている。

ときっぱり。「僕は、今仲良しの友人から言われて嬉しかった話し方や接し方があれば、真似して仕事にも生かしています」と加えた。

吉田さんの接遇力の高さは、過去の経験と人との関わりの中で育まれてきたもの。だからこそ、技術や知識はまだまだながらも、心に寄り添うことで、患者さんの癒しになったのだろう。この優しさも患者さんの回復の力になっていくに違いない。

